

令和五年一月鹿ノ台川柳教室 優秀句

お題「やっぱり」互選 数字は票数

③スマホなどやっぱり無理やこの頭脳
コミバスのゆくすえ不安がらんだう

制裁したら案の定トバツチリ

やっぱりと新聞記事にあいづちし

深深と頭をさげて舌を出す

④矛と盾フアジーになっていく安保

案の定やって来ました年の波

覚悟していたが未明の受信音

やっぱりねほらそうなるか防衛費

⑤老いるとはこんなことかとももの忘れ

⑥マイナンバーあの手この手で迫られる

踏まれてもやはり芽を吹く草の意地

⑦反対の父からそつと祝結婚

⑩秀 老化です医師があつさり言い切った

お題「まごころ」(連記) 山神きよな選

悪い子に優しい言葉かける母

厳冬なんの被災地へボランティア

年の瀬にまごころ便が故郷から

能登路より今年も届く冬野菜

落としものまごころという粗悪品

弁当にぎつしり詰まる妻の愛

せめてもとまごころ込めてユニセフへ

涙出るまごころこもお接待

まごころが生きのびているラブレター

まごころを直した箱が見つからぬ

お心だけと言われて困る布施の額

卒塔婆にまごころと書き虎落笛

ボランティアさせて頂く有難さ

まごころに触れたあの時あの言葉

少しでもまごころの味庭野菜

不器用だが体の芯に届く愛

秀 送り手は名無しのこんべランドセル

軸 亡き夫の書きぞめに愛おいてゆく

まごころが恋を煮詰めて愛にする

口下手な友のまごころ身に沁みる

お題「音」原 広子選

調律を終えてピアノと午後のお茶

散る花の音を五感で聴く座禅

朗報はまだかまだかと手にスマホ

足音をさりげなく待ついいらしさ

りんの音に澄みわたる場の心地よさ

ダダダダーン世界に通ず音となる

どんど焼き炎の海がよせかえす

びん缶の音にあわてて思い出す

靴音で帰宅が誰かわかる母

ボルシチでせめて銃置きお正月

子だくさんうるさい頃を懐かしむ

迷惑をかける酄を我知らず

スマホ切りウグイスの音を待ちこがれ

増税で選挙勝てぬという本音

秀 罪許す音かも知れぬ椿落つ

軸 音も無く雄弁に散る山茶花よ

今日もまた不協和音の倦怠期

第九聴き除夜の鐘聞く大晦日

お題「恨む」(共選) 水間 充選

恨むより忘れる術を磨きましよ

我が辞書に後悔多く恨みなし

大リーグギャラのいい方移籍する

忘れかけた恨みを歌で紛らわす

物価高国の後手後手恨みます

熱湯をかけて逆ギレするなまこ

棺桶にスマホを入れて出してくれ

結果みて恨む相手を間違える

恨みごと五つ六つあり目が冴える

鍵ぎ穴に妻の繰り言ぎつしりと

恨みごと真綿に包み冷ましてる

終活に恨みのページ残さない

恨むのはやめる器量を落とすだけ

隠してた絶品お菓子無くなった

秀 ボク患者よく見てねパソコン止めて

軸 恩讐の彼方に消える恨みごと

お題「恨む」(共選) 森里えいじ選

終活に恨みのページ残さない

ボク患者よく見てねパソコン止めて

恨みごと真綿に包み冷ましてる

わだかまり流してくれた年月日

我が辞書に後悔多く恨みなし

夢やぶる深夜の電話酔っ払い

あらそわず恨む事なく影もなし

逆恨み勘違いしてやるせない

恨みなどありませんわと口利かず

残雪の山タイムリー出ないトラ

豪雪の天に向かって恨み節

よくないね人を恨んでごまかすの

乃り子

正 清

ミ チ

ひよこ

乃り子

充

基 弘

千 楽

アキラ

よう子

広 子

義 雄

義 雄

乃り子

ミ チ

きよな

アキラ

正 清

ちさと

基 弘

えいじ

よう子

哲 子

登 美

広 子

健 一

千 楽

充

登 美

千 楽

哲 子

哲 子

ミ チ

健 一

ミノル

充

ミノル

アキラ

ちさと

ひよこ

恨むのはやめる器量を落とすだけ
物価高国の後手後手恨みます
秀 恨むより忘れる術を磨きましよ
軸 恨みごと五つ六つあり目が冴える
お互いに恨みっこ無し大家族
カラオケで歌い尽くそう恨み節
自由吟 自選

広子
アキラ
広子
えいじ
義雄
義雄
義雄

肩の力抜けば自分を見失う
テレビ通販ツッコミ入れる浪速っ子
図書館が徒歩三分にある恵み
長年の友の賀状の誤字ふたつ
聴いてくれ言いたいことがたとある
ありがとうその一言が友を呼ぶ
朝寒に春待つ花に見習おう
箱根路のかべに挑んだ山登り
返したい老いと病を神様に
同窓会お開き来ても名は不明
60 になってゴールは0さい児
瓢瓢として核心の品の良さ
マイホーム買ったとたんに転勤に
紅白は一瞬見たと嫁が言う
願ってる子どもが笑う国日本
厳寒のあけぼの椿主役はる
命がけほれたはれたがこの顔で
賽銭でふところ具合見えかくれ
まず一兎手にし健康ならば良し
残りものの底つき始動ウサギ年
新年はウサギ料理で赤ワイン
南天と相性の良いニラミ鯛
うさぎさん急ぎすぎたら危ないよ
年賀状思い出せない顔もあり
ふぐ肝を食うて極楽夢うつつ
さらばえて品位の高さご老体
にぎやかにすずめら集うしめ飾り
初詣坂道きつくあおぎみる
地獄耳ウサギの耳と覇を競う
しめ飾り徐々に小さくなっていく
赤字分補填するのにポイントで
寒い朝寝床で悩む二分半
ゲームセット幕はきれいな手で引こう
百歳を目指して蒔こう趣味の種
投げ銭で済ませたつもり初詣
一票が暮らしを変える民主主義

アキラ
郁子
えいじ
きよな
健一
ちさと
千楽
哲子
登美
乃り子
広子
ひよこ
正清
ミチ
充
基弘
よう子
義雄

一月十二日勉強会 お題「新人」アキラ抄
五七五と数える指もぎこちなく ひよこ
新人の当選うらに組織票 郁子
制服も折り目ピシツとかしこまる きよな
とうが立つ新人だけど気は若い 充
三つ指をついた花嫁どこ行った 千楽
次回、二月九日(木) 十三時 いきいきホール
お題「風」字結び可 二句 思い切りのよい句期待
欠席投句も歓迎 出席者で鑑賞いたします

田中薫さんの推薦十句
お心だけと言われて困る布施の額 アキラ
調律を終えてピアノと午後のお茶 ちさと
朗報はまだかまだかと手にスマホ アキラ
終活に恨みのページ残さない 登美
恨むのはやめる器量を落とすだけ 広子
恨みなどありませんわと口利かず ミノル
長年の友の賀状の誤字ふたつ 郁子
しめ飾り徐々に小さくなっていく 充
寒い朝寝床で悩む二分半 基弘
ゲームセット幕はきれいな手で引こう よう子
「評」今回は動く句について述べます。「寒い
朝寝床で悩む二分半」下五は十五分、一時間など
何も二分半でなくても句は成立するのですが、い
じましき、ふんぎりの悪さはやはり二分半が勝り
ます。「長年の友の賀状の誤字ふたつ」ひとつ、
三つでもよさそうですがひとつならありそうな
こと、三つなら病気を疑わせる、二つなら心配に
なる。動く句はドンピシャな語を選択することが
句を生かせます。 薫

奈良番傘75周年誌上川柳大会 まとめて支払
います。四月十七日(月)句会時アキラ迄提出を。
所属柳社、特にない方は鹿ノ台川柳教室と記入。

二句句会 二月二〇日(月) 十三時開場
十三時十分投句 南集会所
「さわやか」(事前投句) 義雄
「やれやれ」(連記) 郁子 「予想」健一
「しびれる」(共選) 幸男 乃り子
自由吟(自選) 各2句 互選はなし

*今後、自由吟は句箋一枚に連記で、記名も。
*「さわやか」メール又は封書でアキラ迄
二月十八日十七時必着、欠席投句も同様に。